

**ファイナンシャル・プランニング技能検定  
3級実技試験（資産設計提案業務）  
サンプル問題**

**厚生労働大臣指定試験機関  
特定非営利活動法人（NPO法人）  
日本ファイナンシャル・プランナーズ協会**

本サンプル問題については、平成22年4月1日現在施行の法令等に基づいています。

## 【ライフプランニングと資金計画】

問 1

F P 業務を行ううえでは、「関連業法」を順守することが重要である。ファイナンシャル・プランナー（以下「F P」という）の行為に関する次の記述のうち、最も適切なものはどれか。

- 1 . 税理士資格を持たないF Pでも、無償であれば、税理士法に定める税務相談を業として行うことができる。
- 2 . 弁護士資格を持たないF Pでも、遺産分割に関して、個別具体的な法律判断をすることができる。
- 3 . 社会保険労務士資格を持たないF Pでも、セミナーにおいて、公的年金制度の概要についての説明をすることができる。

問2

下記は、会社員の稲垣さん（39歳）の家庭のキャッシュフロー表（一部抜粋）である。以下の空欄（ア）にあてはまる数値を求める算式として、正しいものはどれか。なお、計算に当たっては、下記〔注意事項〕を基に解答すること。

〔注意事項〕  
 問題作成の都合上、一部空欄にしてある。また、記載されている数値は正しいものとする。  
 解答に当たっては、表中に記載された整数を使用すること。

< 稲垣家のキャッシュフロー表 >

（単位：万円）

経過年数		現在	1年後	2年後	
西暦（年）		2010	2011	2012	
平成（年）		22	23	24	
家族・年齢	稲垣 拓哉	本人	39歳	40歳	41歳
	美穂	妻	38歳	39歳	40歳
	真希	長女	12歳	13歳	14歳
	奈々	二女	8歳	9歳	10歳
	里奈	三女	5歳	6歳	7歳
ライフイベント		(変動率)	住宅取得		
収入	給与収入(本人)	1%	735	742	750
	給与収入(妻)	1%	220	222	224
	収入合計	-	955	964	974
支出	基本生活費	1%	330	333	
	住宅関連費	1%	300	303	
	教育費	2%	80	250	
	保険料	-	32	32	32
	その他支出	1%	35	35	
	一時的支出	1%	1,200	0	
	支出合計	-	1,977	953	
年間収支	-	1,022			
預貯金等残高	1%	420	(ア)		

1.  $420 \times (1 + 0.01) + (964 - 953)$
2.  $420 + (964 - 953)$
3.  $420 + (964 - 953) \times (1 + 0.01)$

問3

草薙さんが65歳から受け取る老齢基礎年金の額として、正しいものはどれか。なお、草薙さんの保険料納付月数は468月（保険料免除月数はない）、満額の老齢基礎年金額は792,100円、加入可能年数40年とし、下記<資料>の算式に基づいて計算すること（国民年金の任意加入については考慮する必要はない）。また、計算に当たっては、年金額は100円未満を四捨五入すること。

<資料>

[ 老齢基礎年金の額 ]

$$\text{満額の老齢基礎年金額} \times \frac{\text{保険料納付月数} + \text{保険料半額免除月数} \times \frac{2}{3} + \text{保険料全額免除月数} \times \frac{1}{3}}{\text{加入可能年数} \times 12 (\text{月})}$$

1. 772,300円
2. 778,900円
3. 792,100円

【リスク管理】

問 1

下記の<資料>を基に、成川勉さんが契約者および被保険者として加入している、生命保険の保障内容に関する次の記述の空欄(ア)にあてはまる金額として、正しいものはどれか。なお、保険契約は有効に継続しているものとし、勉さんはこれまでに下記の保険から保険金および給付金を一度も受け取っていないものとする。

<資料・保険証券>

定期保険特約付終身保険(一部抜粋)		
契約者 : 成川 勉 様 被保険者 : 成川 勉 様 契約年齢 35 歳 受取人 : (死亡保険金) 成川 花子 様 [ 契約者との続柄 ] 妻	契約日 : 2006 年(平成 18 年) 6 月 1 日 主契約の保険期間 : 終身 主契約の保険料払込期間 : 25 年払込	
保障内容		
主契約・特約名	保険金額・基本年金額・給付金額	保険期間
終身保険(主契約)	保険金額 300 万円	終身
定期保険特約	保険金額 1,700 万円	10 年間
生活保障特約(*)	年金年額 150 万円	10 年間
災害入院特約(本人型)	入院 5 日目から 日額 5,000 円	10 年間
疾病入院特約(本人型)	入院 5 日目から 日額 5,000 円	10 年間
成人病入院特約	入院 5 日目から 日額 5,000 円	10 年間
(*) 生活保障特約の年金種類 : 10 年確定年金		

成川勉さんが平成 22 年中に、交通事故で死亡(即死)した場合に支払われる死亡保険金は、一時金(ア)と年金年額 150 万円×10 回である。

- 1 . 300 万円
- 2 . 2,000 万円
- 3 . 2,150 万円

問2

問1の<資料>を基に、生命保険の保障内容に関する次の記述の空欄(イ)にあてはまる金額として、正しいものはどれか。なお、保険契約は有効に継続しているものとし、勉さんはこれまでにこの保険から保険金および給付金を一度も受け取っていないものとする。

成川勉さんが平成22年中に、肺炎にかかり14日間入院した場合に支払われる入院給付金は、合計(イ)である。

1. 5万円
2. 7万円
3. 10万円

問3

生命保険会社が算出する保険料は「予定基礎率」に基づいて計算され、剰余金がある場合には配当金として契約者に支払われる。剰余金(3利源)に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

<剰余金(3利源)>

(ア)	実際の死亡率が予定死亡率より低い場合に発生する剰余金
(イ)	実際の運用収入が予定利率により見込まれた運用収入より多い場合に発生する剰余金
(ウ)	実際の事業費が予定より少ない場合に発生する剰余金

1. 空欄(ア)に入る語句は、「利差益」である。
2. 空欄(イ)に入る語句は、「死差益」である。
3. 空欄(ウ)に入る語句は、「費差益」である。

【金融資産運用】

問1

下記の<資料>に基づくA株式会社の株価収益率（P E R）として、正しいものはどれか。なお、計算結果については小数点以下第2位を四捨五入すること。

<資料>

	A 株式会社
株価	800円
1株当たり配当金	20円
1株当たり純利益	125円
1株当たり純資産	700円

1.  $800円 \div 20円 = 40.0$
2.  $800円 \div 125円 = 6.4$
3.  $800円 \div 700円 = 1.1$

問2

経済用語に関する下表の空欄（ア）～（ウ）にあてはまる用語に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。

経済用語	内容
（ア）	一般に、物価が持続的に下落する状態
（イ）	家計が購入する商品やサービスの価格変動を表した指数
（ウ）	国内で1年間に生み出された財やサービスの付加価値の合計

1. 空欄（ア）にあてはまる用語は、「インフレーション」である。
2. 空欄（イ）にあてはまる用語は、「消費者物価指数」である。
3. 空欄（ウ）にあてはまる用語は、「国内総生産（GDP）」である。

問3

景気動向指数（D I）に関する次の記述の下線部（ア）～（ウ）のうち、誤っているものはどれか。

景気動向指数（D I）は、（ア）総務省が四半期ごとに発表しており、（イ）「先行指数」、「一致指数」、「遅行指数」の3つの指数がある。なお、「一致指数」が、基調として、おおむね3ヵ月以上50%を上回っているときは、（ウ）一般的に景気の拡張局面と判断される。

- 1．下線部（ア）
- 2．下線部（イ）
- 3．下線部（ウ）

## 【タックスプランニング】

### 問1

一時所得の金額の計算方法に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

1. 「(総収入金額 - 収入を得るために支出した金額) × 1 / 2」で算出する。
2. 「(総収入金額 - 収入を得るために支出した金額) - 特別控除(最高50万円)」で算出する。
3. 「(総収入金額 - 収入を得るために支出した金額) × 1 / 2 - 特別控除(最高50万円)」で算出する。

### 問2

パン屋を営む奥村次郎さん(個人事業主)の平成22年分の所得税の算出において、下記の<所得控除の資料>に基づき計算した所得控除の合計額として、正しいものはどれか。なお、奥村さんの平成22年分の所得は事業所得510万円のみであり、このほかに所得はない。また、記載のない事項については考慮しないこととする。

#### <所得控除の資料>

- ・ 奥村さんは生命保険契約(一般の生命保険料のみ)の保険料を年間13万円支払っている。
- ・ 奥村さんは社会保険料を年間60万円支払っている。
- ・ 基礎控除は38万円である。

1. 5万円(生命保険料控除) + 38万円(基礎控除) = 合計43万円
2. 5万円(生命保険料控除) + 60万円(社会保険料控除) + 38万円(基礎控除) = 合計103万円
3. 13万円(生命保険料控除) + 60万円(社会保険料控除) + 38万円(基礎控除) = 合計111万円

問3

所得税の青色申告者は、一定の要件を満たした場合、いくつかの税務上の特典を受けることができる。青色申告者の特典に係る下表の空欄（ア）～（ウ）に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

青色申告特別控除	控除額は最高（ア）。
青色事業専従者給与	もっぱらその事業に従事している同一生計の妻に給料を支払った場合、金額が適正であれば、その金額の（イ）必要経費に算入することができる。
純損失の繰越控除	損益通算の対象となる損失のうち、損益通算してもなお控除しきれない部分の金額を純損失という。純損失の金額が生じた場合、その損失の金額を翌年以降（ウ）にわたって、順次、各年分の所得金額から控除することができる。

- 1．空欄（ア）に入る金額は、「65万円」である。
- 2．空欄（イ）に入る語句は、「2分の1までを限度として」である。
- 3．空欄（ウ）に入る年数は、「7年間」である。

【不動産】

問 1

下記の<資料>は、登記簿の全部事項証明書（建物）の一部である。この全部事項証明書の内容に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

1. この建物は、昭和60年12月7日に新築されている。
2. この建物の所有者は、現在、斉藤慶彦さんである。
3. この建物には、現在、極度額1,000万円の根抵当権が設定されている。

<資料>

東京都 区 五丁目10-2			全部事項証明書（建物）	
【表題部】（主たる建物の表示）			調製 平成4年2月19日	所在図番号 余白
【所在】	区 五丁目10番地2		余白	
【家屋番号】	10番2		余白	
【種類】	【構造】	【床面積】 m <sup>2</sup>	【原因及びその日付】	【登記の日付】
居宅	木造瓦葺2階建	1階 70 35 2階 42 36	昭和60年11月20日 新築	昭和60年12月7日
余白	余白	余白	余白	昭和63年法務省令第37号附則第2条第2項の規定により移記 平成4年2月19日
余白	余白	余白	余白	余白
【甲区】（所有権に関する事項）				
【順位番号】	【登記の目的】	【受付年月日・受付番号】	【原因】	【権利者その他の事項】
1	所有権保存	昭和60年12月7日 第6830号	余白	所有者 東京都 区 一丁目3番15号 山本孝一
2	所有権移転	平成14年5月10日 第2958号	平成14年5月10日 売買	所有者 東京都 区 二丁目18番1号 斉藤慶彦

（注）<資料>は次頁へ続く

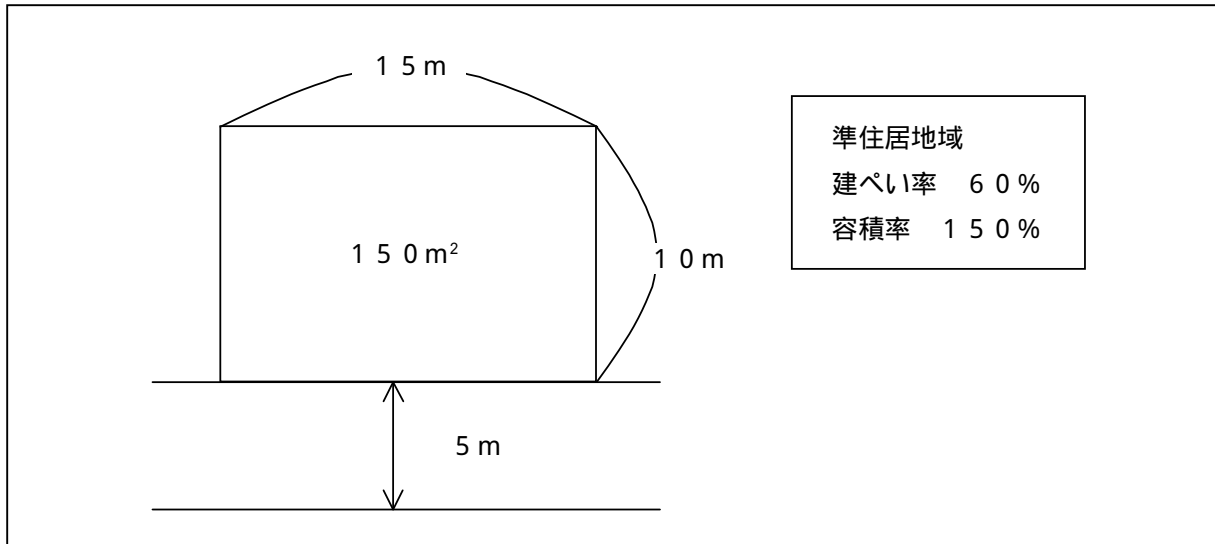
【乙区】(所有権以外の権利に関する事項)				
【順位番号】	【登記の目的】	【受付年月日・受付番号】	【原因】	【権利者その他の事項】
1	抵当権設定	昭和60年12月7日 第6831号	昭和60年12月7日 金銭消費貸借契約 同日設定	債権額 金500万円 利率 年5.5% 損害金 年14.5%(年365日日割計算) 債務者 東京都 区 一丁目3番15号 山本孝一 抵当権者 東京都 区 四丁目2番2号 あさがお銀行株式会社 順位1番の登記を移記
	余白	余白	余白	昭和63年法務省令第37号附則第2条第2項の規定により移記 平成4年2月19日
2	1番抵当権抹消	平成14年5月10日 第2957号	平成14年4月30日 解除	余白
3	根抵当権設定	平成14年10月10日 第4938号	平成14年10月10日 設定	極度額 金1,000万円 債権の範囲 信用金庫取引 手形債権、小切手債権 債務者 東京都 区 二丁目18番1号 斉藤慶彦 根抵当権者 東京都 区 x x 一丁目1番1号 北西信用金庫

\* 下線のあるものは抹消事項であることを示す。

問2

下記<資料>の土地に、建築基準法に従って建物を建築する場合、この土地に対する建築面積の上限として、正しいものはどれか。なお、下記の条件以外のことは考慮しないものとする。

<資料>



1.  $150\text{ m}^2 \times 60\% = 90\text{ m}^2$
2.  $150\text{ m}^2 \times 150\% = 225\text{ m}^2$
3.  $150\text{ m}^2 \times \{(60\% + 150\%) \div 2\} = 157.5\text{ m}^2$

問3

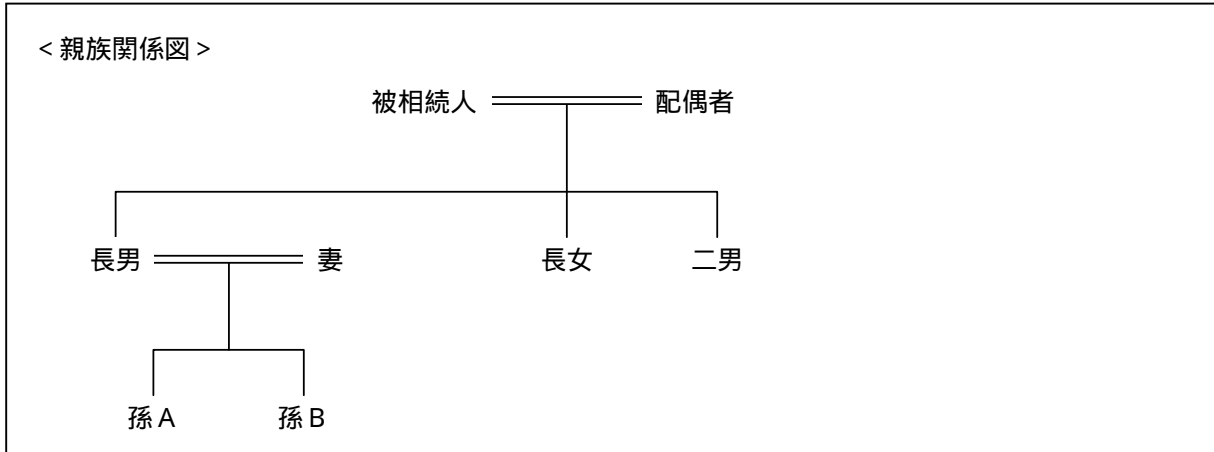
公的な土地評価に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

1. 相続税路線価は、毎年1月1日時点の評価額を、国税局長が評定する。
2. 基準地標準価格は、毎年1月1日時点の評価額を、財務省が公示する。
3. 固定資産税評価額は、毎年4月1日時点の評価額を、市町村長（東京都23区においては東京都知事）が決定する。

【相続・事業承継】

問 1

下記の〈親族関係図〉において、民法の規定に基づく相続人および相続分に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。なお、長男の妻は、被相続人の養子ではないものとする。



1. 長男の妻の法定相続分は  $\frac{1}{2}$  である。
2. 二男の法定相続分は  $\frac{1}{6}$  である。
3. 被相続人の配偶者の法定相続分は  $\frac{1}{2}$  である。

問2

下記の相続事例における、遺産に係る基礎控除額として、正しいものはどれか。なお、下記以外の要件は考慮しないものとする。

相続税の課税価格の合計額 20,000万円

相続人に関するデータ  
相続時精算課税制度を選択した相続人はいないものとする。また、相続の放棄をした者もないものとする。

```
graph TD; A[被相続人] --- B[配偶者 (すでに死亡)]; A --- C[長男 (すでに死亡)]; A --- D[長女]; A --- E[二女]; A --- F[二男];
```

- 1. 5,000万円
- 2. 8,000万円
- 3. 9,000万円

問3

下記の<資料>に基づき、平成22年中に自宅である建物を夫から贈与された妻の贈与税額として、正しいものはどれか。なお、贈与税の配偶者控除を受けるための要件は満たしており、平成22年中に妻が贈与された財産はこれ以外にないものとする。

<資料>

- ・ 家屋 固定資産税評価額：1,640万円  
自用家屋の評価額 = 固定資産税評価額 × 1.0

<贈与税の速算表>

基礎控除後の課税価格		税率	控除額
200万円以下		10%	-
200万円超	300万円以下	15%	10万円
300万円超	400万円以下	20%	25万円
400万円超	600万円以下	30%	65万円
600万円超	1,000万円以下	40%	125万円
1,000万円超		50%	225万円

1. 0円
2. 67万円
3. 540万円

【設例に基づく総合問題】

< 設例 >

香取正広さんは、民間企業に勤務する会社員である。正広さんは定年退職（60歳）が近づくにつれ、今後の生活設計等について考えようと思い、妻の久美さんとともに、FPで税理士でもある木村さんに相談をした。なお、下記のデータはいずれも平成22年7月1日現在のものである。

I. 香取家のデータ

< 家族構成 >

氏名	続柄	職業	年齢	生年月日
香取 正広	本人	会社員	58歳	昭和26年9月10日生まれ
久美	妻	専業主婦	53歳	昭和31年9月22日生まれ
杏	長女	大学院生	24歳	昭和60年8月10日生まれ

. 香取家の財務データ

< 保有財産（時価） >

（単位：万円）

金融資産	
預貯金等	3,800
上場株式	400
生命保険（解約返戻金相当額）	560
不動産	
土地（自宅敷地）	3,400
建物（自宅家屋）	600
その他動産等	50

< 負債残高 >

住宅ローン（自宅）：800万円（債務者は正広さん。団体信用生命保険つき）

< 生命保険等 >

（単位：万円）

保険種類	契約者	被保険者	死亡保険金受取人	保険金額	解約返戻金相当額	保険期間
定期保険A	正広	正広	久美	3,500	0	平成23年まで
終身保険B	正広	正広	久美	700	560	終身

注1：解約返戻金相当額は、現時点（7月1日）で解約した場合の金額である。

注2：保険料は契約者がすべて負担している。

< その他 >

- ・ 正広さんは60歳で定年退職予定である。

問1

F Pの木村さんは、香取家の純資産額を計算することとした。下記の表の空欄(ア)にあてはまる金額として、正しいものはどれか。なお、<設例>に記載のある情報以外の情報については考慮しないこと。

[ 香取家のバランスシート ]

( 単位 : 万円 )

< 資産 >		< 負債 >	
金融資産		住宅ローン	× × ×
預貯金等	× × ×		
上場株式	× × ×		
生命保険 ( 解約返戻金相当額 )	× × ×	負債合計	× × ×
不動産			
土地 ( 自宅敷地 )	× × ×	< 純資産 >	( ア )
建物 ( 自宅家屋 )	× × ×		
その他動産等	× × ×		
資産合計	× × ×	負債・純資産合計	× × ×

- 1 . 8 , 0 1 0 ( 万円 )
- 2 . 8 , 8 1 0 ( 万円 )
- 3 . 9 , 6 1 0 ( 万円 )

問2

正広さんは、T S銀行で住宅ローンを組んでおり、現在、8 0 0万円の住宅ローン残高がある。住宅ローンに関する次の記述のうち、最も適切なものはどれか。

- 1 . 住宅ローンの金利は、公的教育ローンと同様にすべて固定金利であり、変動金利のものはない。
- 2 . 住宅ローンの返済方法のうち、元金と利息を合わせた毎回の返済額が一定の返済方法のものを「元利均等返済」という。
- 3 . 住宅ローンの繰上げ返済をする場合において、毎回の返済額を変えずに返済期間を短縮する方法を「返済額軽減型」という。

問3

正広さんは60歳で勤務先を退職した後も、任意継続被保険者として、現在の健康保険の被保険者の資格を継続したいと考えている。健康保険の任意継続被保険者に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

1. 任意継続被保険者となるためには、健康保険の被保険者期間が通算して12ヵ月以上でなければならない。
2. 任意継続被保険者としての資格期間は、2年間である。
3. 任意継続被保険者の保険料は、労使折半である。

問4

正広さんは、いずれは預貯金のうち一部を外貨預金で運用したいと考えている。外貨預金に関する次の記述のうち、最も適切なものはどれか。

1. 外貨預金の金利は、一般に、金融機関、通貨、預入期間などによって異なっている。
2. 外貨預金には、為替相場の変動に伴う元本割れのリスクはない。
3. 金融取引において、顧客が円を外貨に換える際の為替レートをTTBレート、顧客が外貨を円に換える際の為替レートをTTSレートという。

問5

正広さんは、投資対象として債券に興味を持っている。債券の最終利回り（既発債を時価で購入して償還まで所有した場合の利回り・額面100円）を求める算式として、正しいものはどれか。なお、利回りについては、年率・単利計算で求めることとし、税金や手数料等は考慮しない。

1. 
$$\frac{\text{表面利率}(\%) + \frac{\text{購入価格}(\text{円}) - \text{売却価格}(\text{円})}{\text{残存期間}(\text{年})}}{\text{購入価格}(\text{円})} \times 100$$

2. 
$$\frac{\text{表面利率}(\%) + \frac{100\text{円} - \text{購入価格}(\text{円})}{\text{残存期間}(\text{年})}}{\text{購入価格}(\text{円})} \times 100$$

3. 
$$\text{表面利率}(\%) + \frac{\text{購入価格}(\text{円}) - 100\text{円}}{\text{残存期間}(\text{年})} \times 100$$

問6

杏さんは、医療保険やガン保険に関心を持っており、加入を検討している。医療保険やガン保険に関する次の記述のうち、最も適切なものはどれか。

- 1 . 医療保険やガン保険の保険料は、生命保険料控除の対象となる。
- 2 . 一般に、医療保険では、入院給付金の支払い日数に上限はない。
- 3 . 一般に、ガン保険には免責期間がないため、契約日の翌日にガンと診断された場合でも、保険金等が支払われる。

模範解答

ファイナンシャル・プランニング技能検定  
3級実技試験（資産設計提案業務） サンプル問題

特定非営利活動法人(NPO法人)  
日本ファイナンシャル・プランナーズ協会

	問題 1	問題 2	問題 3
ライフプランニングと資金計画	3	1	1
リスク管理	2	1	3
金融資産運用	2	1	1
タックスプランニング	2	2	1
不動産	1	1	1
相続・事業承継	1	2	1

設例に基づく総合問題	問題 1	問題 2	問題 3
	1	2	2
	問題 4	問題 5	問題 6
	1	2	1